

日本無線・技術変遷特集
JRC・Special Issues
on Technical Evolution



取締役 執行役員 研究開発本部長
正村 達郎
Tatsuuro Masamura
Director and Executive Officer
Research & Development Center

難しい技術への飽くなき挑戦
～進化を求めて～

Resolute Striving for a Higher
Level of Technology

JRCの使命は、快適なコミュニケーションの世界、安心して安全な世界を実現するため、無線技術をベースにした様々な道具を人々に提供することである。求める世界はどんどん変わっていき、それに応える道具もまたどんどん進化しなければならない。それを生み出すため、決して現状に満足せず、常に先回りする技術革新を追求し続けることが、JRCの基本姿勢である。

創業95年、日本無線技報60号発行を機に、超音波診断装置の開発で有名な故中島茂博士の言葉、「創意無限：創意を実現するためには、無限の努力が必要」を実践してきたJRCの技術の変遷についてまとめることにした。JRCは長きに渡って多様な無線装置を世の中に提供してきたが、本特集ではその中で特に今日のJRCにおける事業の柱となっている10の技術分野

(1)SAWデバイス、(2)レーダー、(3)基地局アンプ、(4)マイクロ波通信、(5)GPS、(6)業務用無線、(7)防災無線、(8)河川情報システム、(9)インマルサット、(10)船用無線、

そして、(11)製造技術にしほり、その変遷をまとめた。

それぞれの技術の変遷は顧客の要望にとことん付き合ひ、高性能で低価格な装置を実現するための地道な技術開発の積み重ねであることは言うまでもない。が、それだけではない。環境の変化、市場・顧客要望の変化、何よりも技術革新に対応して、困難に果敢に挑戦し、自ら進化を続けた、変革の歴史でもある。

例えば、歪補償を使用せず低消費電力、低歪を実現していた放送機用電力増幅器は、世界初のFeed Forward方式の歪補償技術を獲得して、携帯電話基地局用Linear Power Amplifier に進化し、爆発的に増大する携帯電話サービスを支えた。携帯端末を作るつもりで基地局を作れないかという考えからオールインワン型のマイクロ中継装置が生まれた。船用GPS受信機の発表を見た車メーカーや電装メーカーの反応に車載用GPSとしての可能性を見抜き、世界初のカーナビ向けGPS受信機を開発し、顧客の過酷なまでの要求に応えることによってトップシェアを築くことが出来た。このように多様な技術を組み合わせることで新しい価値を創造してきたのがJRCの技術革新の真髄である。

JRCは5年後に創立101年を迎える。JRCの新世紀に向け、これからも、明確な目標とビジョンをもって、果敢に新技術、新分野に挑戦し続けて行きたい。